

本谷植物調査 2011

上久保 文貴 (自然遊学館わくわくクラブ)

湯浅 幸子・岩崎 拓 (貝塚市立自然遊学館)

まとめ

貝塚市の植物相を知る上で、重要な位置を占める和泉葛城山周辺の植物について、貝塚市蕎原から和泉葛城山への登山道を中心に、2009年度より植物調査を実施してきた。今回は貝塚市の中央部を流れる近木川上流部の本谷周辺を中心に調査を実施した。本谷流域は登山口の春日橋(308m)から林道本谷線を登りつめ、紀泉高原の稜線を和泉葛城山などへ向かう登山道としても利用されたが、源流域最上部付近は草木が生い茂り道も分かりにくく最近の利用者も少ない。

本谷流域の地形は宿ノ谷流域(Aコース)と同じように、谷筋の地形は急で谷底は深く削られたV字谷の地形も多く、全般的には浸食の激しい壮年期初期の状態かと考えられる。ただ本谷上流の場合は、標高400m~500m付近に比較的緩やかな傾斜の所があるのが特徴的である。流域の植生はほとんどが人工林でスギ・ヒノキがすみずみまで丁寧に植えられた所が多いが、その林縁や谷筋の明るいところで貴重な植物が残されていることが多い(図1)。

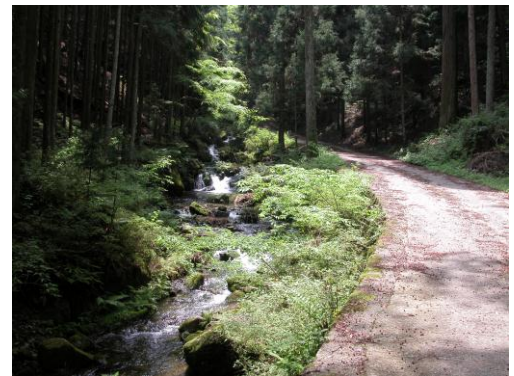


図1. 本谷の景観

今回の調査で確認された植物は、のべ78科232種であった。そのうち「環境省レッドデータブック」(環境省、2000)及び「大阪府レッドデータブック」(大阪府、2000)の指定種は、次の9種であった。

- ①ミヤコミズ (いらくさ科) [環] 絶滅危惧Ⅱ類・[府] 要注目
- ②マネキグサ (しそ科) [環] 絶滅危惧Ⅱ類
- ③コショウノキ (じんちょうげ科) [府] 準絶滅危惧
- ④メギ (めぎ科) [府] 準絶滅危惧
- ⑤ヤマジオウ (しそ科) [府] 準絶滅危惧
- ⑥ユキワライチゲ (きんぼうげ科) [府] 準絶滅危惧
- ⑦シロバナハンショウヅル (きんぼうげ科) [府] 要注目
- ⑧ミヤマウコギ (うこぎ科) [府] 要注目
- ⑨セトウチホトトギス (ゆり科) [府] 要注目

いずれも個体数も少なく分布域も限られたもので、たとえ1個体の採取でもその植物には大きなダメージを与える状態のものばかりである。

その他、注目すべきものとして大阪府では、北部に多く南部に少ないモミジガサ、ミヤマタニソバ、キツリフネなどがあり、また南部にはあるが北部ではほとんど見かけないものとしてマルバウツギ、ムロウマムシグサ、ホウライカズラ、ハナミョウガ、モミジカラスウリなどがある。

また、帰化植物はナンバンカラムシ、メリケンガヤツリ、ブタナ、ニワゼキショウ、アレチギシギシ、ヒメジョオン、ヒメヒオウギズイセン、ツルニチニチソウの8種が確認されたが、そのうち5種は蕎原集落の道ばたで見られたもので、登山口の春日橋(308m)より上の山地まで侵入したものはヒメジョオン、ヒメヒオウギズイセン、ツルニチニチソウの3種のみであった。

標高375mの登山道Aコースとの分岐点を過ぎ、本谷をしばらく登ると谷筋が深く削られた溪谷が数10mにわたって見られる所がある。谷の兩岸は急な崖地のため植林することができず雑木林になった所であり、その中にヤブツバキ、シラカシ、アラカシ、カゴノキ、アオキ、シロダモ、ネズミモチなどの照葉樹林を構成する樹種が多く見られる。同様な地形が標高500m付近にもありヤブツバキ、シラカシ、ウラジロガシ、シロダモ、ヤブニッケイなどの照葉樹が見られる。かつて人手の加わる以前のこの地域の自然植生はカシやシイ、ヤブツバキなどを中心とした照葉樹林に広くおわれていたと考えられているが、その名残をとどめたものかと考えられる。

標高400m~500m付近の谷筋は比較的緩やかな傾斜で、流れも緩やかで谷幅も広く明るい。多様な植生の見られる所である。谷筋にはよく伸びたケヤキ、シイなども見られるが、スギの植林地ではひとときよく伸びた個体があり幹周りが約460cmほどに育っている。

調査方法

近木川本流の本谷周辺の植物を調べるために、2011年の春と秋にそれぞれ1回ずつの調査を行った。春の調査は6月24日に3名で、蕎原ほの字の里から春日橋を経て本谷の標高450m地点までを歩き、川や道沿いの植物を記録・撮影した。秋の調査は10月17日に2名で、春日橋から本谷の標高510m付近の広場を経て、そこから分岐した2本の林道を往復し、植物を記録・撮影した。調査ルート全体の標高は約200~600mである。図2に調査ルートの地図を示した。

以下、場所ごとに確認された種をリストアップした。「希」、「やや希」、および帰化植物を示す「帰」等の記号は、桑島(1990)の「大阪府植物目録」に従った。また、「大阪府レッドデータブック」(大阪府、2000)の指定種にはランクを示し、「環境省レッドデータブック」の指定種の場合は、[全]の記号の後にランクを示した。

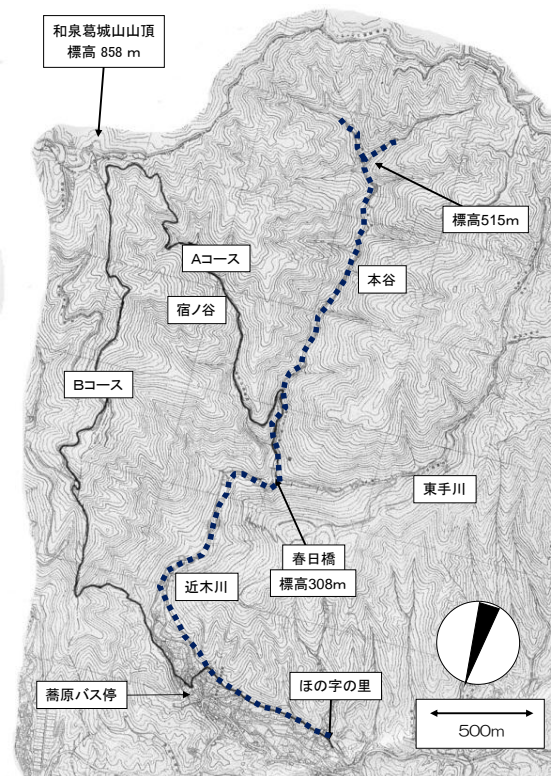


図2. 本谷植物調査ルート
(.....調査ルートを点線で示した)

2011年6月24日

調査者：上久保文貴・湯浅幸子・岩崎拓

ほの字の里駐車場の下から蕎原水田にかけて

セトウチホトトギス(希・要注目)、ワラビ、ミョウガ、シャガ、ミズヒキ、ナンバンカラムシ(帰)、ゼンマイ

坂崖

ショウジョウバカマ、メリケンガヤツリ(帰)、ホソイ、ドクダミ、ヒエガエリ、ブタナ花(帰)、ヒメジョオン花(帰)、ニワゼキショウ花(帰)

蕎原水田のあたり

ユキノシタ花、アレチギシギシ(帰)、ホタルブクロ白花、キケマン、コバノヒノキシダ(やや希)、オニユリ、キツネガヤ、ナラガシワ(やや希)、アオカモジグサ、アオツツラフジ、カエデドコロ、タチシノブ、ウキクサ、クリハラン(やや希)、イチヤクソウ(やや希)、メヤブマオ、ミョウガ、カテンソウ(やや希)、ハエドクソウ、チャ(逸出)、ヒメコウゾ(やや希)、ホソバカナワラビ(やや希)、キツリフネ(やや希)、ヤブニンジン、キチジョウソウ(希)、オヤブジラミ、ハエドクソウ、ムロウマムシグサ(やや希)、チャセンシダ(やや希)、クリハラン(やや希)、ムラサキシキブ、シュウブソウ

春日橋手前トイレ周辺

シラキ、ヤマコウバシ、ヒメコウゾ(やや希)、ケヤキ、イヌビワ、コアカソ、イタドリ、カラムシ、オニタビラコ、チヂミザサ、アブラチャン(やや希)、オオバノイノモトソウ、シャガ、ヤブガラシ、ビナンカズラ、アオキ、ネズミモチ、ヤブツバキ、フジ、イタドリ、マスクサ、ヤブヘビイチゴ、マダケ、ヤダケ

春日橋から葛城山登山道Aコース分岐橋まで

コナスビ花、ハナイカダ、ミヤコミズ(希・要注目・[全]絶滅危惧Ⅱ類)、サワギク、ヒメジョオン(帰)、クジャクシダ(やや希)、イタドリ、キツネノボタン、シロバナハンショウヅル(希・要注目)、ウリノキ(やや希)、トリガタハンショウヅル(やや希)、オカタツナミソウ、ササユリ、アマチャヅル(やや希)、オオツツラフジ(やや希)、モミジカラスウリ(希)、コモチマンネングサ、イワタバコ(やや希)、ヤブイバラ(やや希)

登山道Aコース分岐橋から本谷へ

イワタバコ(やや希)、ドクダミ、シラキ、リョウブ、カマツカ、ヤマコウバシ実、ウワミズザクラ(やや希)、アオツツラフジ、カンスゲ(やや希)、ヤマウグイスカグラ、ナツノハナワラビ(希)、

ドクダミ、イタドリ、コナスビ花、チヂミザサ、カラムシ、ツルカノコソウ (やや希)、アカメガシワ、クジャクシダ (やや希)、エビガライチゴ (やや希)、イロハモミジ、イワガネゼンマイ (やや希)、オオバノイノモトソウ、ワラビ、ダイコンソウ、ウラジロウツギ (やや希)、カンスゲ (やや希)、キツネノボタン、キツリフネ花 (やや希)、フモトシダ、キブシ、ササノハスゲ (やや希)、オカタツナミソウ、キクバドコロ (希)、マルバウツギ、ジュウモンジシダ、ハカタシダ (やや希)、ヤブソテツ、ツルカノコソウ (やや希)、ビナンカズラ、ミズヒキ、アオキ、カゴノキ (やや希)、ネムノキ、イノデ、ニワトコ、モミジガサ (やや希)、アラカシ、クリハラン (やや希)、コアカソ、マルバウツギ、ナガバジャノヒゲ (希)、ミツバアケビ、イラクサ、クサイチゴ、ミョウガ、クマワラビ、ヒトリシズカ (やや希)、ヤマアジサイ花、アブラチャン (やや希)、ミヤマフユイチゴ (やや希)、アマチャヅル (やや希)、シロバナハンショウヅル (希・要注目)、キツリフネ (やや希)、フユイチゴ、オオナルコユリ (希)、アカネ、サワギク、ニワトコ、ミズヒキ、オオバノイノモトソウ、マルバマンネングサ (やや希)、コナスビ、トウバナ、カスミザクラ、ドクダミ、ヒサカキ、マルバウツギ、ヌカボシソウ、イヌツゲ、マメツタ、クサイチゴ、アブラチャン (やや希)、イヌザクラ (希)、ミツバアケビ、ミヤマウコギ (希・要注目)、ムロウマムシグサ (やや希)、ヤブヘビイチゴ、ジュズスゲ、オオバコ、セキショウ、ノブキ、フタリシズカ (やや希)、ミゾソバ、タケニグサ、ウバユリ、ヨシノアザミ、エビガライチゴ (やや希)、マツカゼソウ、クサイチゴ、ヒメレンゲ (やや希)、コバンノキ (やや希)、ニワトコ赤い実、ナベナ (やや希)、ササノハスゲ (やや希)、ケヤキ、シロバナハンショウヅル (希・要注目)、ヒトリシズカ (やや希)、オカタツナミソウ

標高 450m地点 (道路窪み近く)

シロバナショウジョウバカマ (やや希)、モミジガサ (やや希)、ウリノキ (やや希)、イワタバコ (やや希)、ヤマイヌワラビ、ホウチャクソウ、ナワシロイチゴ

引き返して、谷側に大きな切り株のあたり

ミヤマタゴボウ (やや希)、トウチク (逸出)、イボタノキ、サルトリイバラ、アケボノソウ、ハダカホオズキ (やや希)、サンショウ (やや希)、ヒメヒオウギズイセン (帰)、イヌガヤ (やや希)、ツルニチニチソウ (帰)

以下、まとめのリストと主な植物の図版を示した。

本谷で確認された植物（2011年6月24日）－1

被子植物 合弁花類

きく科	ブタナ、ヒメジョオン、シュウブンソウ、オニタビラコ、サワギク、モミジガサ、ノブキ、ヨシノアザミ
ききょう科	ホタルブクロ
まつむしそう科	ナベナ
おみなえし科	ツルカノコソウ
すいかずら科	ヤマウグイスカグラ、ニワトコ
おおばこ科	オオバコ
はえどくそう科	ハエドクソウ
いわたばこ科	イワタバコ
なす科	ハダカホオズキ
しそ科	オカタツナミソウ、トウバナ
くまつづら科	ムラサキシキブ
あかね科	アカネ
きょうちくとう科	ツルニチニチソウ
りんどう科	アケボノソウ
もくせい科	ネズミモチ、イボタノキ
さくらそう科	コナスビ、ミヤマタゴボウ
いちやくそう科	イチヤクソウ
りょうぶ科	リョウブ

被子植物 離弁花類

せり科	ヤブニンジン、オヤブヅラミ
うこぎ科	ミヤマウコギ
みずき科	アオキ、ハナイカダ
うりのき科	ウリノキ
うり科	アマチャヅル、モミジカラスウリ
きぶし科	キブシ
ぶどう科	ヤブガラシ
もちのき科	イヌツゲ
つりふねそう科	キツリフネ
かえで科	イロハモミジ
みかん科	マツカゼソウ、サンショウ
とうだいくさ科	シラキ、アカメガシワ、コバンノキ
まめ科	フジ、ネムノキ
ばら科	ヤブヘビイチゴ、ヤブイバラ、カマツカ、ウワミズザクラ、ダイコンソウ、クサイチゴ、ミヤマフユイチゴ、フユイチゴ、カスミザクラ、イヌザクラ、エビガライチゴ、ナワシロイチゴ
ゆきのした科	ユキノシタ、ウラジロウツギ、マルバウツギ、ヤマアジサイ
べんけいそう科	コモチマンネングサ、マルバマンネングサ、ヒメレンゲ
けし科	キケマン、タケニグサ
つばき科	チャ、ヤブツバキ、ヒサカキ
せんりょう科	ヒトリシズカ、フタリシズカ
どくだみ科	ドクダミ
つづらふじ科	アオツヅラフジ、オオツヅラフジ
あけび科	ミツバアケビ
きんぼうげ科	キツネノボタン、シロバナハンショウヅル、トリガタハンショウヅル
くすのき科	ヤマコウバシ、アブラチャン、カゴノキ
まつぶさ科	ビナンカズラ

本谷で確認された植物（2011年6月24日）－2

被子植物 離弁花類

たで科	ミズヒキ、アレチギシギシ、イタドリ、ミゾソバ
いらくさ科	ナンバンカラムシ、メヤブマオ、カテンソウ、コアカソ、カラムシ、ミヤコミズ、イラクサ
くわ科	ヒメコウゾ、イヌビロ
にれ科	ケヤキ
ぶな科	ナラガシワ、アラカシ

被子植物 単子葉類

しょうが科	ミョウガ
あやめ科	シャガ、ニワゼキショウ、ヒメヒオウギズイセン
やまのいも科	カエデドコロ、キクバドコロ
ゆり科	セトウチホトギス、ショウジョウバカマ、オニユリ、キチジョウソウ、ササユリ、ナガバ ジャノヒゲ、アマチャヅル、オオナルコユリ、ウバユリ、シロバナショウジョウバカマ、ホ ウチャクソウ、サルトリイバラ
いぐさ科	ホソイ、ヌカボシソウ
うきくさ科	ウキクサ
さといも科	ムロウマムシグサ、セキショウ
かやつりぐさ科	メリケンガヤツリ、マスクサ、カンスゲ、ササノハスゲ、ジュズスゲ、ササノハスゲ
いね科	ヒエガエリ、キツネガヤ、アオカモシグサ、チヂミザサ、マダケ、ヤダケ、トウチク

裸子植物

いぬがや科	イヌガヤ
-------	------

シダ植物

はなやすり科	ナツノハナワラビ
ぜんまい科	ゼンマイ
こばのいしかぐま科	ワラビ、フモトシダ
ほうらいしだ科	タチシノブ、クジャクシダ、イワガネゼンマイ
いのもとそう科	オオバノイノモトソウ
ちゃせんしだ科	コバノヒノキシダ、チャセンシダ
おしだ科	ホソバカナワラビ、ジュウモンジシダ、ハカタシダ、ヤブソテツ、イノデ、クマワラビ
いわでんだ科	ヤマイヌワラビ
うらぼし科	クリハラン、マメツタ

シダ植物の分類は、「日本の野生植物シダ」(平凡社)に従った。
それ以外の植物の分類は、「大阪府植物目録」(近畿植物同好会)に従った。

図版1. 蕎原本谷の主な植物



オカタツナミソウ
しそ科
蕎原本谷 2011年6月24日



ハナイカダ
みずき科
蕎原本谷 2011年6月24日



キツリフネ
つりふねそう科
蕎原本谷 2011年6月24日



クマイチゴ
ばら科
蕎原本谷 2011年6月24日



エビガライチゴ
ばら科
蕎原本谷 2011年6月24日



ヤマアジサイ
ゆきのした科
蕎原本谷 2011年6月24日



ミヤコミズ
いらくさ科
蕎原本谷 2011年6月24日



オオナルコユリ
ゆり科
蕎原本谷 2011年6月24日



蕎原本谷2011年6月24日
はなやすり科
ナツノハナワラビ



蕎原作業道2011年6月24日
イチヤクソウ科
イチヤクソウ



アブラギリ
とうだいぐさ科
蕎原作業道 2011年6月24日



ホソバカナワラビ
おしだ科
蕎原作業道 2011年6月24日

2011年10月17日

調査者：上久保文貴・湯浅幸子

春日橋から

オオハナワラビ (やや希)、シャガ、コショウノキ (希・準絶滅危惧)、ユキワリイチゲ (希・準絶滅危惧)、ミヤコミズ (希・要注目・[全]絶滅危惧Ⅱ類)、アキチョウジ、ハナタデ、ノササゲ、イヌタデ、ウリノキ (やや希)、ヒメカナワラビ (やや希)、クマノミズキ、オトコエシ、カラムシ、シュウブソウ、イヌコウジュ、ヤマノイモ、カヤ (やや希)、アキノタムラソウ、モミジカラスウリ (希)、ヨシノアザミ花、ノコンギク、アケボノソウ花、アカネ、ツルグミ (やや希)

葛城山登山道Aコースへの分岐橋のあたり

タケニグサ花、ハダカホオズキ実 (やや希)、アキチョウジ、ミズヒキ、シャガ、ヒメコウゾ (やや希)、オトコエシ、ヒヨドリバナ、キツネノボタン、ゼンマイ、ミヤマフユイチゴ (やや希)、ナキリスゲ、ニガイチゴ、キブシ、オオバコ、タネツケバナ

登山道Aコース分岐橋から本谷へ

ミツバアケビ実、アオキ、シラキ実、ウワミズザクラ (やや希)、クマワラビ、ビナンカズラ、マルバウツギ、イワガネソウ、イワガネゼンマイ (やや希)、コアカソ、ミズヒキ、ヤマミズ (やや希)、チヂミザサ、イノコヅチ、クジャクシダ (やや希)、カンスゲ (やや希)、ウツギ、ダイコンソウ、ドクダミ、オオバノイノモトソウ、カマツカ、アカメガシワ、コアカソ、ナワシログミ、スイカズラ、カラムシ、ミヤマササガヤ (希)、アケビ、コウヤボウキ、イタドリ、サルトリイバラ、ネズミモチ、ヒサカキ、アラカシ、イロハモミジ、イヌタデ、ヤマコウバシ、キブシ実、ハカタシダ (やや希)、オカタツナミソウ、シロダモ、ハナイカダ雄、オオハナワラビ (やや希)、テイカカズラ、マメヅタ、カエデドコロ、ミヤマカンスゲ、イヌガヤ (やや希)、モミジガサ (やや希)、ヤブタバコ、クリハラン (やや希)、イノデ、ヤブツバキ、オニカナワラビ (やや希)、ササノハスゲ (やや希)、イノコヅチ、ホウチャクソウ、イヌトウバナ (やや希)、ヒメレンゲ (やや希)、フユイチゴ、アマチャヅル (やや希)、ヤマアジサイ、ウバユリ、ムロウマムシグサ (やや希)、ヤマミズ (やや希)、ニワトコ、フジ、ヤブハギ (やや希)、ノササゲ、マツカゼソウ、ミヤマタニソバ (やや希)

小屋下あたりから

ミヤコミズ (希・要注目・[全]絶滅危惧Ⅱ類)、カンスゲ (やや希)、ハダカホオズキ (やや希)、ホドイモ (やや希)、ムカゴイラクサ (やや希)、クサアジサイ、ヒメレンゲ (やや希)、オオナルコユリ (希)、ムロウマムシグサ (やや希)、ヘクソカズラ、ヤマコウバシ、アブラチャン (やや希)、ウラジロウツギ (やや希)、ムラサキシキブ、コバンノキ実 (やや希)、ホウチャクソウ、ナツトウダイ (希)、ウド (やや希)、ネムノキ、オオハナワラビ (やや希)、オニヤブソテツ (やや希)、オニカナワラビ (やや希)、オオベニシダ (やや希)

道路脇空き地

オオバコ、ノコンギク、イヌタデ、ハナタデ、ヤブタバコ、ヒメコウゾ（やや希）、イタドリ、キツネノボタン、ササクサ、ゲンノショウコ（ピンク）、ヒメヒオウギズイセン（帰）、ヘビイチゴ、セキショウ（川の中）

本谷林道に戻り

アケボノソウ群生・花、イヌコウジュ、アオミズ、ノガリヤス、ニワトコ、コメナモミ、ナンバンハコベ実（やや希）、オオナルコユリ実（希）、シュウブソウ、ミゾソバ、ナベナ（やや希）、レモンエゴマ、ミズタマソウ、マタタビ、ウマノミツバ、ナガバジャノヒゲ（希）、ドクダミ、メギ（希・準絶滅危惧）、ヤブハギ（やや希）、ミカエリソウ（やや希）、フキ、ウリノキ（やや希）、レモンエゴマ群生、ガンクビソウ（やや希）、マツカゼソウ群生、ヤブコウジ、イワタバコ（やや希）、クロモジ sp.、ノアズキ、フジカンゾウ、ヌスビトハギ、ヤブハギ（やや希）、ヒガンバナ、ムラサキニガナ、ジュウモンジシダ、ミヤマウコギ（希・要注目）、ショウジョウバカマ、ウラジログシ（やや希）

広場から直進

ミヤマウコギ（希・要注目）、ヤブニッケイ（やや希）、ムロウマムシグサ（やや希）、アキチョウジ、レモンエゴマ、ガンクビソウ（やや希）、ハナタデ、マネキグサ（希・[全]絶滅危惧Ⅱ類）、クサアジサイ、ミカエリソウ（やや希）、クジャクシダ（やや希）、アオキ、イノデ、モミジガサ（やや希）

広場から左の林道へ

シロダモ、モミジカラスウリ（希）、ナツトウダイ（希）、シュウブソウ、アオミズ、ナギナタコウジュ（やや希）、ハナタデ、レモンエゴマ、コアカソ、ツルニガクサ（やや希）、ミヤマタニソバ（やや希）、ムカゴイラクサ（やや希）、ミツバ、ミョウガ（やや希）、チャルメルソウ（やや希）、ビナンカズラ、アブラチャン（やや希）、チヂミザサ、ヤブハギ（やや希）、ハダカホオズキ赤い実（やや希）、ハシカグサ（やや希）、ニガイチゴ、クワクサ、オオバノイノモトソウ、コメナモミ、シロバナハンショウヅル（希・要注目）、ヤマジオウ（希・準絶滅危惧）、ノササゲ

以下、まとめのリストと主な植物の図版を示した。

本谷で確認された植物（2011年10月17日）－1

被子植物 合弁花類

きく科	シュウブソウ、ヨシノアザミ、ノコンギク、ヒヨドリバナ、コウヤボウキ、モミジガサ、ヤブタバコ、コメナモミ、フキ、ガンクビソウ、ムラサキニガナ
まつむしそう科	ナベナ
おみなえし科	オトコエシ
すいかずら科	スイカズラ、ニワトコ
おおばこ科	オオバコ
いわたばこ科	イワタバコ
なす科	ハダカホオズキ
しそ科	アキチヨウジ、イヌコウジュ、アキノタムラソウ、オカタツナミソウ、イヌトウバナ、レモンエゴマ、ミカエリソウ、マネキグサ、ナギナタコウジュ、ツルニガクサ、ヤマジオウ
くまつづら科	ムラサキシキブ
あかね科	アカネ、ヘクソカズラ、ハシカグサ
きょうちくとう科	テイカカズラ
りんどう科	アケボノソウ
もくせい科	ネズミモチ
やぶこうじ科	ヤブコウジ

被子植物 離弁花類

せり科	ウマノミツバ、ミツバ
うこぎ科	ウド、ミヤマウコギ
みずき科	クマノミズキ、アオキ、ハナイカダ
うりのき科	ウリノキ
あかばな科	ミズタマソウ
うり科	モミジカラスウリ、アマチャヅル
きぶし科	キブシ
ぐみ科	ツルグミ、ナワシログミ
じんちょうげ科	コショウノキ
かえで科	イロハモミジ
みかん科	マツカゼソウ
とうだいくさ科	シラキ、アカメガシワ、コバンノキ、ナツトウダイ
ふうろそう科	ゲンノショウコ
まめ科	ノササゲ、フジ、ヤブハギ、ホドイモ、ネムノキ、ノアズキ、フジカンゾウ、ヌスビトハギ
ばら科	ミヤマフユイチゴ、ニガイイチゴ、ウワミズザクラ、ダイコンソウ、カマツカ、フユイチゴ、ヘビイチゴ
ゆきのした科	マルバウツギ、ウツギ、ヤマアジサイ、クサアジサイ、ウラジロウツギ、チャルメルソウ
べんけいそう科	ヒメレンゲ
あぶらな科	タネツケバナ
けし科	タケニグサ
つばき科	ヒサカキ、ヤブツバキ
またたび科	マタタビ
どくだみ科	ドクダミ
あけび科	ミツバアケビ、アケビ
めぎ科	メギ
きんぼうげ科	キツネノボタン、シロバナハンショウヅル、ユキワリイチゲ
くすのき科	ヤマコウバシ、シロダモ、アブラチャン、クロモジsp.、ヤブニツケイ

本谷で確認された植物（2011年10月17日）－2

被子植物 離弁花類

まつぶさ科	ビナンカズラ
ひゆ科	イノコヅチ
なでしこ科	ナンバンハコベ
たで科	ハナタデ、イヌタデ、ミズヒキ、イタドリ、ミヤマタニソバ、ミゾソバ
いらくさ科	ミヤコミズ、カラムシ、コアカソ、ヤマミズ、ムカゴイラクサ、アオミズ
くわ科	ヒメコウゾ、クワクサ
ぶな科	アラカシ、ウラジロガシ

被子植物 単子葉類

しょうが科	ミョウガ
あやめ科	シャガ、ヒメヒオウギズイセン
やまのいも科	ヤマノイモ、カエデドコロ
ひがんばん科	ヒガンバナ
ゆり科	サルトリイバラ、ホウチャクソウ、ウバユリ、オオナルコユリ、ナガバジャノヒゲ、ショウジョウバカマ
さといも科	ムロウマムシグサ、セキショウ
かやつりぐさ科	ナキリスゲ、カンスゲ、ミヤマカンスゲ、ササノハスゲ
いね科	チヂミザサ、ミヤマササガヤ、ササクサ、ノガリヤス

裸子植物

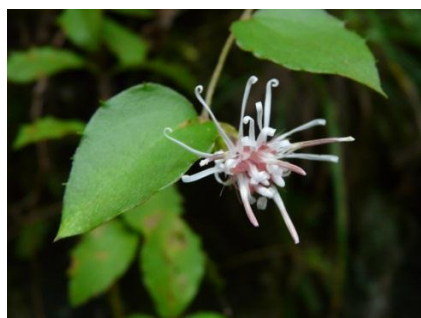
いぬがや科	イヌガヤ
いちい科	カヤ

シダ植物

はなやすり科	オオハナワラビ
ぜんまい科	ゼンマイ
ほうらいしだ科	イワガネソウ、イワガネゼンマイ、クジャクシダ
いのもとそう科	オオバノイノモトソウ
おしだ科	ヒメカナワラビ、クマワラビ、ハカタシダ、イノデ、オニカナワラビ、オニヤブソテツ、オオベニシダ、ジュウモンジシダ
うらぼし科	マメヅタ、クリハラン

シダ植物の分類は、「日本の野生植物シダ」(平凡社)に従った。
それ以外の植物の分類は、「大阪府植物目録」(近畿植物同好会)に従った。

図版2. 蕎原本谷の主な植物



コウヤボウキ
きく科
蕎原本谷 2011年10月17日



ヨシノアザミ
きく科
蕎原本谷 2011年10月17日



ヨメナ
きく科
蕎原本谷 2011年10月17日



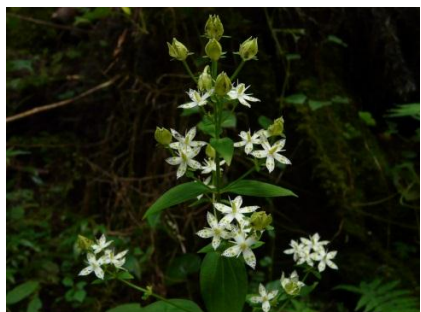
アキチョウジ
しそ科
蕎原本谷 2011年10月17日



ナギナタコウジュ
しそ科
蕎原本谷 2011年10月17日



レモンエゴマ
しそ科
蕎原本谷 2011年10月17日



アケボノソウ
りんどう科
蕎原本谷 2011年10月17日



ノササゲ
まめ科
蕎原本谷 2011年10月17日



ナンバンハコベ
なでしこ科
蕎原本谷 2011年10月17日



ミヤマタニソバ
たで科
蕎原本谷 2011年10月17日



ムカゴイラクサ
いらくさ科
蕎原作業道 2011年10月17日



クリハラン
うらぼし科
蕎原作業道 2011年10月17日

2011年6月24日と10月17日の2回の調査で確認された植物は78科232種であった。以下にまとめのリストを示した。

本谷で確認された植物（2011年調査のまとめ）－1

被子植物 合弁花類

きく科	シュウブソウ、ヨシノアザミ、ノコンギク、ヒヨドリバナ、コウヤボウキ、モミジガサ、ヤブタバコ、コメナモミ、フキ、ガンクビソウ、ムラサキニガナ、ブタナ(帰)、ヒメジョオン(帰)、オニタビラコ、サワギク、ノブキ
ききょう科	ホタルブクロ
まつむしろう科	ナベナ
おみなえし科	オトコエシ、ツルカノコソウ
すいかずら科	スイカズラ、ニワトコ、ヤマウグイスカズラ
おおばこ科	オオバコ
はえどくそう科	ハエドクソウ
いわたばこ科	イワタバコ
なす科	ハダカホオズキ
しそ科	アキチョウジ、イヌコウジュ、アキノタムラソウ、オカタツナミソウ、イヌトウバナ、レモンエゴマ、ミカエリソウ、マネキグサ、ナギナタコウジュ、ツルニガクサ、ヤマジオウ、トウバナ
くまつづら科	ムラサキシキブ
あかね科	アカネ、ヘクソカズラ、ハシカグサ
きょうちくとう科	テイカカズラ、ツルニチニチソウ(帰)
りんどう科	アケボノソウ
もくせい科	ネズミモチ、イボタノキ
さくらそう科	コナスビ、ミヤマタコボウ
やぶこうじ科	ヤブコウジ
いちやくそう科	イチヤクソウ
りょうぶ科	リョウブ

被子植物 離弁花類

せり科	ウマノミツバ、ミツバ、ヤブニンジン、オヤブヅラミ
うこぎ科	ウド、ミヤマウコギ
みずき科	クマノミズキ、アオキ、ハナイカダ
うりのき科	ウリノキ
あかばな科	ミズタマソウ
うり科	モミジカラスウリ、アマチャヅル
きぶし科	キブシ
ぐみ科	ツルグミ、ナワシログミ
じんちょうげ科	コショウノキ
ぶどう科	ヤブガラシ
もちのき科	イヌツゲ
つりふねそう科	キツリフネ
かえで科	イロハモミジ
みかん科	マツカゼソウ、サンショウ
とうだいぐさ科	シラキ、アカメガンシワ、コバンノキ、ナツトウダイ
ふうろそう科	ゲンノショウコ
まめ科	ノササゲ、フジ、ヤブハギ、ホドイモ、ネムノキ、ノアズキ、フジカンソウ、ヌスビトハギ
ばら科	ミヤマフユイチゴ、ニガイチゴ、ウワミズザクラ、ダイコンソウ、カマツカ、フユイチゴ、ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴ、ヤブイバラ、クサイチゴ、カスミザクラ、イヌザクラ、ナワシロイチゴ、エビガライチゴ
ゆきのした科	マルバウツギ、ウツギ、ヤマアジサイ、クサアジサイ、ウラジロウツギ、チャルメルソウ、ユキノシタ

本谷で確認された植物（2011年調査のまとめ）-2

被子植物 離弁花類（つづき）

べんけいそう科	ヒメレンゲ、コモチマンネングサ、マルバマンネングサ
あぶらな科	タネツケバナ
けし科	タケニグサ、キケマン
つばき科	ヒサカキ、ヤブツバキ、チャ
またたび科	マタタビ
どくだみ科	ドクダミ
つづらふじ科	アオツツラフジ、オオツツラフジ
あけび科	ミツバアケビ、アケビ
めぎ科	メギ
きんぼうげ科	キツネノボタン、シロバナハンショウヅル、トリガタハンショウヅル、ユキワリイチゲ
くすのき科	ヤマコウバシ、シロダモ、アブラチャン、クロモジsp.、ヤブニッケイ、カゴノキ
まつぶさ科	ヒナンカズラ
ひゆ科	イノコヅチ
なでしこ科	ナンバンハコベ
たで科	ハナタデ、イヌタデ、ミズヒキ、イタドリ、ミヤマタニソバ、ミゾソバ、アレチギシギシ(帰)
いらくさ科	ミヤコミズ、カラムシ、コアカソ、ヤマミズ、ムカゴイラクサ、アオミズ、イラクサ、メヤブマオ、カテンソウ、ナンバンカラムシ(帰)
くわ科	ヒメコウゾ、クワクサ、イヌビワ
にれ科	ケヤキ
ぶな科	アラカシ、ウラジロガシ、ナラガシワ

被子植物 単子葉類

しょうが科	ミョウガ
あやめ科	シャガ、ヒメヒオウギズイセン(帰)、ニワゼキショウ(帰)
やまのいも科	ヤマノイモ、カエデドコロ、キクバドコロ
ひがんばん科	ヒガンバナ
ゆり科	サルトリイバラ、ホウチャクソウ、ウバユリ、オオナルコユリ、ナガバジャノヒゲ、ショウジョウバカマ、セトウチホトギス、オニユリ、キチジョウソウ、ササユリ、シロバナショウジョウバカマ、アマチャヅル
いぐさ科	ホソイ、ヌカボシソウ
うきくさ科	ウキクサ
さといも科	ムロウマムシグサ、セキショウ
かやつりぐさ科	ナキリスゲ、カンスゲ、ミヤマカンスゲ、ササノハスゲ、メリケンガヤツリ(帰)、マスクサ、ジュズスゲ
いね科	チヂミザサ、ミヤマササガヤ、ササクサ、ノガリヤス、ヒエガエリ、キツネガヤ、アオカモジグサ、マダケ、トウチク、ヤダケ

裸子植物

いぬがや科	イヌガヤ
いちい科	カヤ

シダ植物

はなやすり科	オオハナワラビ、ナツノハナワラビ
ぜんまい科	ゼンマイ
こばのいしかぐま科	ワラビ、フモトシダ
ほうらいした科	イワガネソウ、イワガネゼンマイ、クジャクシダ、タチシノブ
いのもとそう科	オオバノイノモトソウ
ちゃせんしだ科	チャセンシダ、コバノヒノキシダ
おしだ科	ヒメカナワラビ、クマワラビ、ハカタシダ、イノデ、オニカナワラビ、オニヤブソテツ、オオベニシダ、ジュウモンジシダ、ホソバカナワラビ、ヤブソテツ
いわでんだ科	ヤマイヌワラビ
うらぼし科	マメツタ、クリハラン

以上、シダ植物の分類は、「日本の野生植物シダ」（平凡社）に、それ以外の植物の分類は、「大阪府植物目録」（桑島、1990、近畿植物同好会）に従った。合弁花類、離弁花類、単子葉類、裸子植物、シダ植物の科数と種数は、以下の通りであった。

種子植物	被子植物	双子葉類	合弁花類	19科	53種
			離弁花類	38科	110種
		単子葉類	10科	42種	
	裸子植物	2科	2種		
孢子植物	シダ植物	9科	25種		
					合計 78科 232種

引用文献

岩槻邦男編（1992）『日本の野生植物シダ』, 311pp., 平凡社.
 大阪府（2000）『大阪府における保護上重要な野生生物—大阪府レッドデータブック—』, 442pp.
 環境庁（2000）『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物 I（維管束植物）』, 662pp.
 桑島正二（1990）『大阪府植物目録』, 197pp., 近畿植物同好会.